

【館林市】
校務 DX 計画

1. 校務 DX を推進する上での現状と課題

「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果、館林市では一部の分野で DX 化が進んでおり、例として、教職員と保護者間の連絡では、保護者連絡ツールを活用した欠席・遅刻・早退連絡の効率化が実現している。

また、学校内では校務支援システムやクラウド型コミュニケーションツールによる情報共有の円滑化が進み、業務効率化が図られている。

一方で、FAX でのやり取りや押印を必要とする書類が依然として多く、業務効率化を妨げている。また、教職員と保護者間の便り配信や、学校内の調査・アンケートの実施、教職員と児童生徒間の連絡事項配信などでは、デジタル化が不十分な状況が残っている。

さらに、教職員の ICT 活用スキルのばらつきが課題となっており、デジタルツールの導入・活用に支障を来している。これらの現状を踏まえ、さらなる DX 推進が必要である。

2. 校務 DX の課題解決、次世代の校務デジタル化

令和 7 年度より、県域共同調達で学校デジタル基盤(校務支援システムと汎用クラウドツール)の導入が検討されている。本市では令和 9 年度の参画に向けて検討を行う予定。

県域のデジタル基盤に参画することで、校内、学校と保護者間、学校と児童生徒間のデジタル化の基盤が整備されるとともに、県域で活用事例や先進事例が共有されることから、本市においても参画を検討していく。

また、校務の効率化・ペーパーレス化の阻害要因である FAX や押印の見直しを進めるとともに、セキュリティポリシーの制定や、要録の電子保管等の課題についても、県域の事例を参考として検討を深める。